

「2005 ISS-OUP Prize」授賞論文

紹 介

東京大学社会科学研究所は、1996年5月に付設された「日本社会研究情報センター」の事業の一環として、日本社会に関する社会科学研究をめざす国際的な英文雑誌、すなわち *Social Science Japan Journal* (SSJJ) の刊行を決定しました。そして、約1年間の準備期間をへて、97年6月にオックスフォード大学出版局 (Oxford University Press, 以下 O.U.P.) と正式に出版契約を結び、98年4月に創刊号 (第1巻第1号) を刊行することができました。SSJJ は年2回の定期刊行物で、投稿論文、サーヴェイ論文、書評論文、書評の4分野からなり、2007年9月現在、第10巻第1号 (通巻19号) が刊行されています。

さて、社会科学研究所 (ISS) と O.U.P. は、現代日本社会に関する若手研究者の研究を奨励する目的で、2002年度から「ISS-O.U.P. Prize」を設置し、当該年度に SSJJ に掲載された論文のなかで最も優れたものを顕彰する事業を開始しました。優秀論文の選考は、編集委員、外部アドヴァイザリーボード (30名) の推薦を受けたあと、12月の拡大編集会議での討議をへて、翌年の編集会議で決定します。今回、紹介する論文は、2005年度「ISS-O.U.P. Prize」授賞論文である、Hans Martin Kramer, “Just Who Reversed the Course? The Red Purge in Higher Education during the Occupation of Japan” (第8巻第1号、掲載) を SSJJ 編集部で翻訳 (訳: 楠綾子) したものです。なお、SSJJ の活動や本論文の授賞理由につきましては、東京大学社会科学研究所 SSJJ のホームページ (<http://ssjj.iss.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧ください。

SSJJ 編集長 石 田 浩